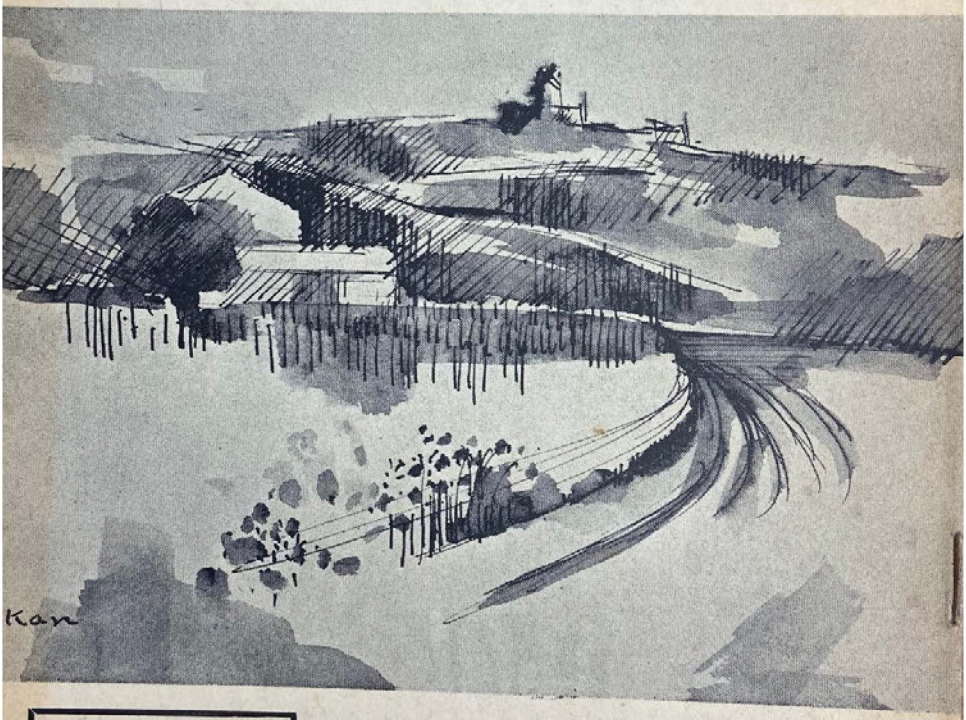
合併号

春陽

1964.10.11



小杉放庵追悼号

第41回展について
会記録 etc.

甲斐サチ、内海柳子、会員推挙（絵画）入江親、田代利夫、（版画）三井永一。○4・22春陽展出品者懇親会、於日比谷公園内松本楼

■編集室

この春陽の編集は、今回から、スタッフが変わった。小坂茂、西郷隆弥、山本朝子、横山了平、の四人である。タフガイ松島治基氏から何となくお鉢がまわって、この十・十一号の合併号を手がけることと相成った。今にして、松島氏を中心にした前の方々に改めて感謝の念を強くします。永い間御苦労様でした。次号より更にこの愛すべき小誌は、縮少される。これも費用の関係上止むを得ず、総務会で議決をみたものです。御了承頂きたいこんなこともやってみると、愛着を感ずるもので、何とか独立採算で創刊号の巻頭にあった、創造の助けとして、発溌たる小誌に育てたい気持が強い。今後とも全国の諸兄姉の温きお力添えを得て、続刊したく存じます。何卒宜しくお願いします。最後に四氏の顔ぶれなど御紹介しておきましょう。小坂茂、イカリと取り組む人、毛深く情深い。電話をかけると魅力ある声の奥さんが出られる。うそだと思ったらかけてごらん。印刷のベテランでもあり、絶体頼りになる。西郷隆弥、一見呑気そうだが論理的で、才気あり、編集にはうってつけの人物、もっぱら頭をつかってもらう、グレンフォードに似ているわよ、あの人山本朝子、紅一点、優しいがシンの強い人。地味な力でぬけはすべて補ってもらう。なんて世話やけるんでしようなんて言わないで。横山了平、酒を呑むと極めて頼りない。正気の時は更にもって頼りない。これで男が立つのかしら、とは恋人の言とか、いやはや。

なお編集部の我儘なお願いにもかかわらずお忙しい処を会のために玉稿をお寄せ下さった諸兄に厚く御礼申し上げます。笠木実氏には写真をお願いしながら紙面の都合上割愛せざるを得なかった点、お詫び申し上げます。

（横山記）

▽おねがいその他△

□「春陽」第十・十一号をお届けします。画論、提案、質問その他個展、もろもろの消息をお知らせ下さい。この場をかりて大いに春陽会関係の各位の交流に微力をつくしたいと考えておりますので、常時玉稿お寄せ下さるようお願い致します。なお御投稿には原稿用紙をご利用下さい。

□「春陽」は年三回として送料とも百円ですから会計雄智雄二氏の言をかりるまでもなく、諸物価高の現状においては、大変難事業となってきましたが、会事務所の協力ならびに多くの有志の方々のカンパを頂戴しまして、感激しております。今後とも一層のご協力をお願い致します。申し上げにくき事なれど、今後は会員、準会員各位にも講読料御負担願う事となりましたのでよろしく。

□原稿及び誌代をお送り下さる時は当編集部宛、また振替利用の時は、[redacted]

■越智雄二方「口座番号[redacted]、加入者名、春陽会」宛「春陽」誌代と明記してお送り下さい。誌代として十円切手をご利用されても結構であります。

○表紙題字中川一政、カット入江観

春陽 第十・十一合併号

昭和39年7月20日

編集発行人 横山了平

印刷 鶴屋美術印刷㈱

[redacted]

横山了平方

『春陽』編集部